

エンジニアパーク

Engineer *Ring* Park



北原 繁志 水産（水産土木）／建設（港湾及び空港）／総合技術監理部門

勤務先：北海道開発局 函館開発建設部

「海の技術は世界で通用する。」これは私が北海道開発局に入局した頃、先輩から聞いた言葉です。平成10年には漁港関係のJICA短期専門家としてインドネシアにて4カ月ほど勤務し、この言葉を実感してきました。

さて、私は道東の佐呂間町で生まれ、子供時代は公共事業（特に道路）によって田舎町の生活が日々便利になっていくことを実感し、叔父が開発局の技術者だったこともあり、土木の道を志しました。1978年に入局以来27年間道内や水産庁で港湾・漁港部門の技術者として勤務し、現在は函館開建で港湾・漁港・空港事業全般についての業務を行っています。皆さんの記憶に新しい、平成16年9月の台風18号による災害復旧事業も業務の1つです。この台風災害では多くの防波堤が波によって破壊されました。海は食料としての魚貝類や、海水浴やダイビングなどの癒しの場として大きな恵みを私達に与えてくれますが、一旦荒れると波の力は想像を絶するすごさです。この海とつきあっていくためには、現場をよく見ること、具体的には、過去に作られて現在も機能している構造物をよく観察し、その工学的理由を分析して新しい構造物づくりに生かしていくことが重要と考えています。

これまで港湾技術者として導いてくれた諸先輩に心から感謝するとともに、今後とも世界で通用する技術の習得を目指して研鑽し、後輩にも海のすばらしさやすごさを伝えていきたいと考えている今日この頃です。



次号は、山内繁樹さん（水産部門）



佐々木誠也 建設部門（道路）

勤務先：空知支庁地域政策部

私は、1983年（昭和58年）に技術吏員として道庁に採用されて以来約23年間、道路部門を中心に様々なセクションにおいて道行政の執行に携わってきました。

昨今、公共事業は、情報化時代の到来とともに、真の成果を問われ、一方では様々な技術革新への対応を迫られることとなりました。これに伴い、「説明責任を果たせる高度な技術を有する人材育成」が必要となり、幅広い見識を磨く自己啓発の必要性から、ある意味で技術者にとって「受難の時代」となりました。「技術士を取得したのもその一過程だった。」とは言い過ぎかもしれませんが、品確法の制定などにより発注者側のチェック機能としての技術的資質も問われるなか、少なくとも取得したことにより技術者としての使命感を持ったのは紛れもない事実です。そう考えると、先の「耐震設計偽造騒動」は、安全で安心な建築物を設計すべき技術者の信用を失墜させた大変残念な出来事であり、私自身も「初心忘るべからず」と肝に銘じたところです。

さて私こと、現在支庁において地域住民との協働を推進・企画するセクションについており、北海道においても地域主権に向けた道州制推進などの取組みを行っています。

そこで思うことは、どんな組織においても「技術」にはボーダー（垣根）はないということです。

技術者としての気概を忘れず、住みよい地域を目指した社会資本を形成するため、今後とも切磋琢磨したいと考えております。



次号は、武智弘明さん（建設／上下水道部門）